別記様式２－２号

視察研修等報告書

令和７年２月５日

坂井市議会
議長　戸板　進　殿

受付
第　　号
7.2.-5
議会事務局
兵庫県坂井市役所

会派名　チャレンジさかい
報告者　三宅小百合 [redacted]

１日　時　　令和７年１月３０日（木）～３１日（金）２日間

２視察研修先　　和気町生ごみ資源センター　岡山県和気郡和気町苦木８
和気町役場　　岡山県和気郡和気町尺所555

３視察研修内容　　和気町生ごみ資源センター　「生ごみ堆肥化事業」
和気町役場　　「オーガニックビレッジ宣言」

４．参加者　　三宅　小百合

５．内容詳細

和気町生ごみ資源センター「生ごみ堆肥化事業」

家庭の生ごみを堆肥化する施設で視察を行った。この施設は平成 26 年に一部事務組合が解散することになり、和気町単独でのごみ処理となったため、可燃ごみを民間に委託し、生ごみを分別して堆肥化処理することを決定した。施設はそれまで稼働していた和気赤磐共同コンポスト組合の施設を活用して事業を行うことになった。

平成 25 年度にモデル事業を開始し、平成 26 年から全町での取り組みが始まって 11 年が経過している。回収から堆肥化までの流れは、①各戸で和気町から配布された水切りバケツに生ごみを溜めておく。②週２回の回収日に各ゴミステーションに設置された青色のバケツに移し入れる。③トラックが青いバケツを回収し資源化センターに運び込む。④コロニー（微生物を多く含む木製チップ菌床）に混ぜこむ。⑤微生物により分解された菌床を数か月寝かせる。⑥ふるいにかけると良質な堆肥となる。

そして出来た堆肥は有料で販売を行っており町民には無料で配布している。

令和５年度は 453 トンの生ごみを回収した。また令和６年から選定した庭木を無料回収してチップ化を行っている。

オーガニックビレッジ宣言

オーガニックビレッジは、環境に配慮した有機農業の面積を 2050 年までに 100 万ヘクタールに増やすという国の目標のもと、生産から消費まで一貫して地域ぐるみで有機農業に取り組む自治体のことである。令和６年４月 23 日に和気町が岡山県初のオーガニックビレッジ宣言を行った。この宣言により国から交付金などの支援を受け、令和 10 年までの５年で有機農業の面積を今の５倍以上に増やす目標を掲げている。

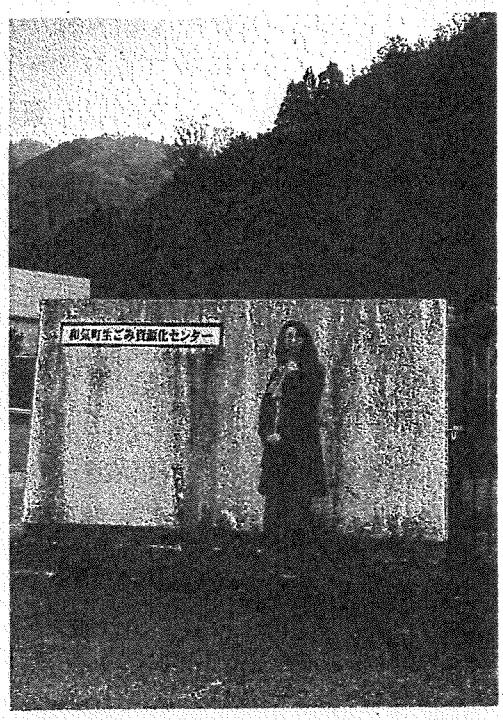
宣言を行った経緯は、現町長が選挙公約に掲げて当選したことから始まり、令和６年３月に「和気町有機農業実施計画」を策定し、翌月にオーガニックビレッジ宣言を行っている。この和気町有機農業実施計画では①生産②販売③担い手④啓発の４つを施策の柱として実施にむけて必要な取り組みを進めている。宣言後の取り組みとして①検討会の実施②稲作技術の取得・稲作教室の開催③有機 JIS 団体認定取得及び有機 JIS 講習会④有機作物栽培教室⑤団地化に取り組むエリアの選定・確保⑥協議会独自のブランドロゴ作成⑦田植え祭り・稲刈り祭りの開催⑧学校給食への有機栽培米活用事業⑧和気マルシェと連携した販路の確保を行っている。

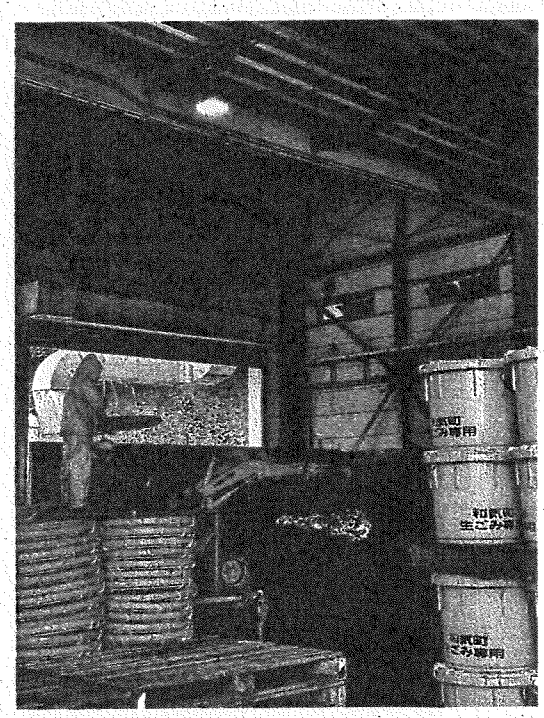
６．所感・感想

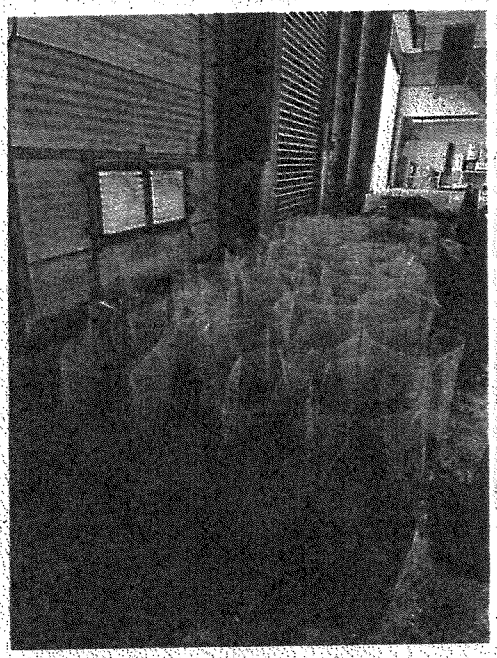
ストップ地球温暖化授業を受けた児童が、自分たちができる取り組みとして、給食の食べ残しを減らす発表を聞き、生ごみを資源化できる事業の調査を行った。和気町生ごみ資源化センターは、菌床に生ごみを混ぜ込むシンプルで低コスト事業であった。しかし人口約 9 万人の本市で想定すると規模が大きく家庭の生ごみの資源化は難しい。（和気町は人口約 13,000 人）。和気町は 2024 年から菌床に使用するチップを家庭で剪定した庭木を回収して作る「剪定枝出張回収事業」を始めた。循環型の素晴らしい事業である。

オーガニックビレッジ宣言は、町長就任から 2 年というスピーディな実現に驚いた。令和 5 年、令和 6 年には学校給食に有機栽培米を 3 か月間提供している。これらのことから移住の問い合わせが増え、2024 年に約 90 人が移住をした。子育て世代が豊かな自然を求め、安全で新鮮な食料品が手に入る循環型社会を求めて移住することが理解できた。ふく育県にある坂井市としても坂井平野で有機栽培農業 25%の早期実現を目指して動きたい。

７．参考資料　写真４枚







会派内供覧
[redacted]